

2016年上半期 わが国貿易のポイント

丸紅株式会社 丸紅経済研究所

チーフ・エコノミスト かねこ **金子** てつや **哲哉**
 エコノミスト おおつ **大津** ともや **智也**
 エコノミスト さとう **佐藤** ようすけ **洋介**

(日本貿易会 貿易動向調査委員会)

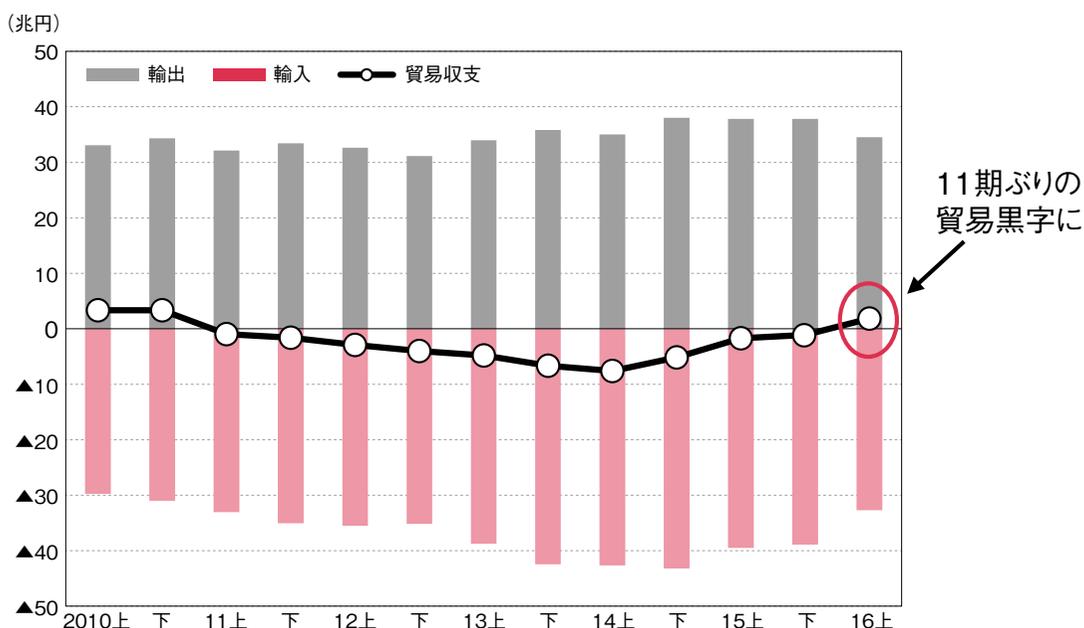
1. 震災後、半期ベースで初の貿易黒字に

財務省が発表した2016年上半期の貿易統計によると、1-6月の輸出金額は34兆5,186億円（前年同期比8.7%減）、輸入金額は32兆7,066億円（同17.2%減）となった。円高

の進行（※）や世界経済の減速、原油安などから、輸出入共に大きく減少している。

資源価格の下落を主因として輸入の減少幅が輸出の減少幅を上回ったことから、貿易収支は1兆8,121億円の黒字となった。半期で

図1 貿易収支の推移



(資料) 財務省「貿易統計」より作成

黒字となるのは2010年下半期以来11期ぶりのことである。2011年3月に発生した東日本大震災以降、原子力発電所が停止し火力発電所向けの化石燃料の輸入が増えていた中で初の黒字転換となった(図1)。

以下、商品別、地域別に輸出入のポイントを見てみたい(特に断りがなければ増減は前年同期比)。

※2016年上半期の税関長公示レートの前平均値は113.12円/ドル(前年比5.7%の円高)

2. 商品別輸出—鉄鋼が最大の減少要因

輸出金額は8.7%の減少となり、2期連続のマイナスとなった。内訳は、数量が2.3%減少、価格が6.5%低下している。輸出金額が大きく減少した品目は、鉄鋼(27.5%減)、有機化合物(22.8%減)、半導体等電子部品(11.6%減)、金属加工機械(29.4%減)、科学光学機器(17.9%減)などとなっている。

最大の押し下げ要因となったのは鉄鋼であり、価格の下落幅が26.2%にも及んだ。これは、中国で鉄鋼が過剰生産状態にある中、国内で消費しきれなかった分が海外にあふれ出し、市場価格が大幅に下落したためである。

金属加工機械は2014年から2015年にかけて堅調に推移してきたが、その約7割を占める工作機械が、中国経済の減速などを背景に、数量面で34.8%もの大幅減少となった。中国や韓国向けの数量が30%を超える落ち込みとなった。

輸出で最も大きな構成比を占める自動車は、これまで好調な輸出を維持してきたが、輸出金額は2.7%の減少となった。最大の輸出相手国である米国向けは数量が5.6%増加したことから金額でも2.9%の増加となったが、原油安による景況悪化を背景に中東やロ

シアなどの産油国向けは大きく落ち込み、自動車輸出全体を押し下げる結果となった。

3. 商品別輸入—原油安により価格が大幅低下

輸入金額は3期連続の減少となり、17.2%もの大きな下落となった。内訳は、数量が1.1%減、価格が16.2%低下となっており、価格落ち込みの寄与が大きかった。

その主因は先にも述べたように、資源価格の下落である。これにより、輸入金額は、原油及び粗油(38.2%減)、LNG(液化天然ガス)(46.4%減)、石油製品(45.4%減)が大きく減少し、全体を押し下げた。原油及び粗油は数量が3.2%増加したものの、原油価格低迷により大幅減少となった。

そのほか、資源価格の下落を受け、鉄鉱石(37.7%減)、非鉄金属鉱(23.9%減)が大きく落ち込んだ。

4. 地域別輸出入—米国向け輸出は9期ぶりのマイナス

地域別に見ると、対米国では、輸出が7兆436億円と6.5%減少し、9期ぶりのマイナスとなった。数量が5.5%減となったことが響いている。原油安によるエネルギー産業の不振や、自動車の現地生産の進展などから、関連する品目の輸出が低調だった。特に鉄鋼が39.0%減、金属加工機械が24.5%減と大きく落ち込んだ。

対アジアでは、2015年下半期以降、輸出入共に金額が減少していたが、2016年上半期は減少幅が拡大し、輸出が17兆9,180億円(11.4%減)、輸入が16兆5,918億円(13.0%減)となった。うち対中国は、中国経済の減速などを背景に輸出入共に振るわず、いずれも10%程度の減少となっている。品目別に

図2 商品別輸出入

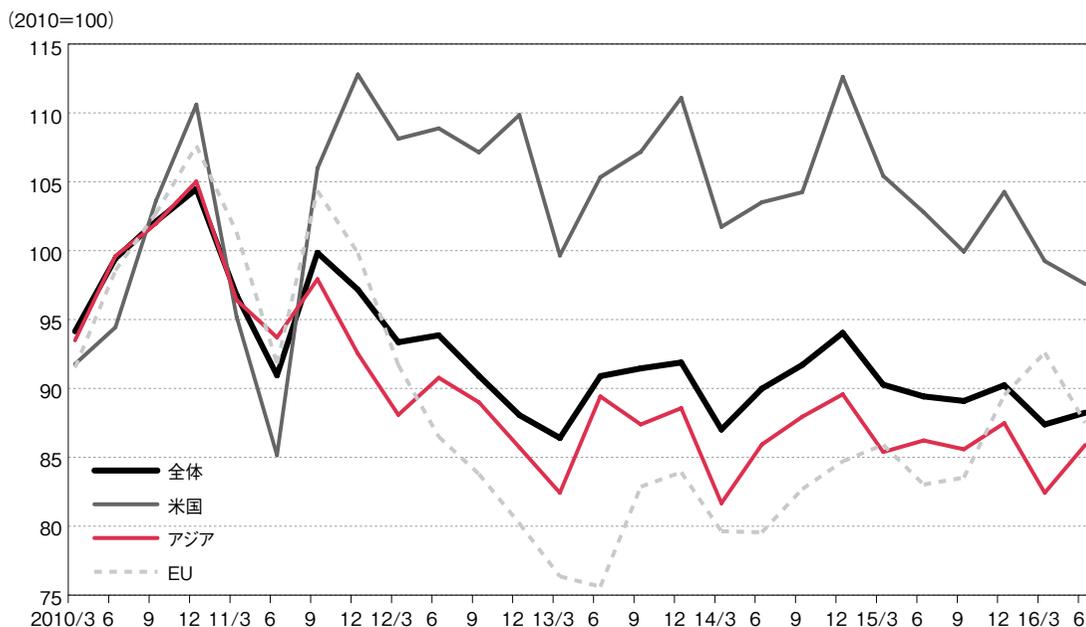
輸出		前年比
総額	34,519	▲8.7%
食料品	287	2.6%
原料品	490	▲18.6%
鉱物性燃料	449	▲29.6%
化学製品	3,559	▲10.2%
原料別製品	3,930	▲17.4%
鉄鋼	1,417	▲27.5%
非鉄金属	615	▲17.4%
織物用糸・繊維製品	340	▲4.7%
非金属鉱物製品	415	▲6.1%
ゴム製品	420	▲16.5%
一般機械	6,733	▲8.7%
原動機	1,183	▲10.4%
金属加工機械	501	▲29.4%
電気機器	5,905	▲9.3%
半導体等電子部品	1,706	▲11.6%
電気計測機器	697	▲3.6%
輸送用機器	8,672	▲1.2%
自動車	5,488	▲2.7%
自動車の部分品	1,633	▲4.6%
船舶	873	15.2%
その他	4,494	▲8.3%
科学光学機器	970	▲17.9%

(単位：10億円)

輸入		前年比
総額	32,707	▲17.2%
食料品	3,151	▲9.4%
魚介類	702	▲5.8%
肉類	630	▲6.8%
原料品	2,028	▲22.7%
鉄鉱石	389	▲37.7%
非鉄金属鉱	590	▲23.9%
鉱物性燃料	5,816	▲40.0%
原油及び粗油	2,588	▲38.2%
石油製品	525	▲45.4%
LNG	1,672	▲46.4%
LPG	242	▲36.5%
石炭	768	▲23.6%
化学製品	3,568	▲3.7%
原料別製品	3,075	▲14.9%
鉄鋼	352	▲20.0%
非鉄金属	661	▲27.8%
織物用糸・繊維製品	439	▲7.6%
非金属鉱物製品	356	▲7.6%
一般機械	3,278	▲8.6%
電算機類(含周辺機器)	887	▲10.9%
電気機器	5,254	▲10.1%
半導体等電子部品	1,254	▲16.1%
通信機	1,236	▲8.3%
輸送用機器	1,474	▲4.8%
自動車	557	3.6%
航空機類	331	▲16.4%
その他	5,061	▲6.4%
衣類・同付属品	1,430	▲7.1%

(資料) 財務省「貿易統計」より作成

図3 地域別輸出数量指数の推移（移動3ヵ月平均）



(資料) 財務省「貿易統計」より作成

見ると、輸出では鉄鋼が27.1%減、輸入では液化天然ガスが40.1%減、石油製品が55.3%減などとなっており、鉄鋼や資源価格の下落の影響を大きく受けている。

対EUは、輸出が4.0%増の4兆438億円となった。船舶が94.4%増と大幅増となった他、自動車も10.4%増となった。

5. 今後の注目点—トレンドは変わるか

そもそも輸出は、弱含みの動きが続いている。地域別の輸出数量を東日本大震災前と比較すると、米国向けは震災前の水準を回復しているが、アジア、EU向けは依然下回ったままであり、全体としては伸び悩んでいる(図3)。円高、世界経済の減速などの逆風が吹く中、これが今後どのように推移するかが注目される。

また、2016年上半期の輸出入金額を押し

下げた円高や原油安などの状況についても変化が起こりつつあり、先行きには不透明感が残っている。為替は、今後日米欧で採用される金融政策などをにらみながら、神経質な動きを続けていくことになろう。原油価格には持ち直しの動きが見られ、米国エネルギー情報局(EIA)によると年後半にかけて緩やかに上昇すると予測されている。鉄鋼価格も持ち直し始めた。

こうした状況も踏まえると、2016年上半期の貿易黒字をもたらした状況は流動的であり、今後も世界経済の潮流の中でのトレンドを注視していく必要がある。

なお貿易動向調査委員会では、秋口より今後の貿易動向を商品別に検討し、「2017年度わが国貿易収支、経常収支の見通し」としてとりまとめ、12月初めに発表する予定なので、ご期待いただきたい。

JETC